

今年5.4 たらし滝測定会

自然が生み出す水の滝に一同注目

2月11日、石鳥谷町大瀬川にて第49回たらし滝測定会が同保存会により行われました。同測定会は、沢水が凍ってできないたらし滝の太さを毎年同日に測定し、稲作の作柄を占う行事。本年のたらし滝の測定結果は5.4と、前年を5.3以下回る結果となり、平年並作と見込まれました。同保存会は昨年、長年の取り組みが評価され環境大臣表彰を受賞。熊谷会長は恒例の川柳で「たらし滝 皆の熱意が 大臣賞」と詠み上げ、集まった会員や来場者らと喜びを分かち合いました。



測定を見守る来場者。滝の高さは13.2mを超える

最新の農業を学ぼう

農業の未来を考えるワークショップ

2月13日、花巻農業高校で「農業の未来を考えるワークショップ」が行われました。市内農業法人や農業機械メーカーを講師に、生物化学科2年生の授業の一環で実施。「農業の未来」をテーマに、生徒と講師による熱い議論が行われました。また、スマート農業などの最新の農業に関する説明もあり、無人で動くトラクターなどの映像に生徒は興味津々。ワークショップ終了後には「スマート農業を体験したい」「農家さんを見学したい」といった意欲ある声が続きました。



講師と議論を交わす生徒たち

賢治脚本作品を市民が上演

第47回 花巻市民劇場

花巻市民劇場「宙(そら)の巡りのめあて」宮沢賢治戯曲四部作「」を2月18日・19日の両日、文化会館で行いました。同公演の演目は、宮沢賢治作「植物医師」「飢餓陣営」「種山ヶ原の夜」「ポランの広場」の4作品。稗貫農学校の教師時代、賢治が生徒たちに演じさせていた戯曲です。同公演では賢治の脚本を分かりやすい方言などに手直しし、市民劇場のオリジナルティを加え制作。全て市民が手作りした舞台は来場者を魅了し、会場から大きな拍手が送られました。



「ポランの広場」の一場面

市民生活コーナー

「契約トラブルに注意！
若者も狙われる」

■どんなトラブルがあるの？

○契約書をよく読まずに契約したら自分に不利な内容だった。慌てて解約を申し出たが「納得してサインしたことになる」と言われ解約することができなかった。SNSで副業サイトの広告を見てノウハウが書かれた情報教材を購入した。さらに有料サポートプランの説

■注意することは？

○契約とは「申し込み」と「承諾」の意思表示が相互に合致することで成立する法的な拘束力を持つ約束です。契約書がなくても、口約束でも成立し、一度契約すると一方的に取り消すことはできません。よく考えて納得してから契約しましょう。内容によっては取り消

■困った時は？

○悪質事業者はSNSを勧誘の手段として悪用することがあり、社会経験の浅い、成年になって間もない若者を狙ってきます。業者の手口や契約締結時の注意点を知らずトラブル防止にもつながります

令和元年10月に着任した今野陽介隊員が、3月31日付で退任します。退任する今野隊員にこれまでの活動の振り返りを聞きました。

地域おこし協力隊が退任します



作り手の皆さん、応援してくださった皆さん、花巻の皆さん、本当にお世話になりました



▲花巻の和紙、染め物、和傘を組み合わせた「雲透き傘」台焼で師匠の峰秀さんと

大学在学中に協力隊として活動を始め、あっという間の3年半。周りの皆さんに支えられてここまでやってきました。

工芸担当として活動を始めた理由は単純にモノが好きだということ。活動を通してさまざまな作り手とお話させていただき、作る様子を見たり、こだわりを聞いたり、代々引き継がれてきた歴史を感じたりと、多くのことを学びました。そんな中で、モノには作り手の思い、先代の思い、それらを愛する人々の思いが入っていることを知り、モノへの見方が大きく変わりました。モノをただ紹介するのではなく「この人が作ったこの作品だから紹介したい」と思うようになり、発信活動から制作体験・展示企画・商品開発まで多くのことを一緒にさせていただきました。私自身にとっても本当にかけがえない時間でした。

一度花巻を離れ焼き物の修行に行きますが、花巻はこれからも訪れますし、花巻の工芸には関わり続けますので、どうぞこれからもよろしく願いいたします。

●台焼で個展を開催中(3月18日まで)。関わった花巻の工芸品や私自身が制作した作品を展示しています

健康コラム

～健康はなまき21プランより～

健康づくりのポイント「地域医療の充実」編

病院と診療所(かかりつけ医)は、患者の症状に応じて役割や機能を分担して医療を提供しています。このため、上手に医療機関にかかることは、より適切な医療を受けられ、医療費も節約でき、地域の医療を守り支えることにつながります。自分と大切な家族の命を守るために、今できることから始めましょう。

●かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医は、日常的な病気や軽いけがの診療、健康管理のアドバイスをしてくれる地域の身近なお医者さんです。▶体の不調▶ちょっとした症状が気になる▶人間ドックや健(検)診で異常を指摘された一などは、すぐに大病院に行くのではなく、かかりつけ医が入院や特別な検査・治療などを必要と判断した場合は、入院設備や高度医療機器を備えた病院を紹介してくれます。その後、病状が安定し、通院治療が可能になれば、再びかかりつけ医が治療などに当たってくれます。



●できるだけ診療時間内に受診しましょう

症状の程度に関わらず、自分の都合で休日や夜間の救急病院を安易に利用すると、入院や救命が必要な重症患者の治療に支障が出る恐れがあります。救急病院に駆け込む前に、電話相談や休日当番医などを上手に利用しましょう。診療時間内に受診することは、専門医による診断や検査を受けられるメリットがあるほか、医師の負担を減らし、地域医療を支えることにもつながります。

【問い合わせ】健康づくり課(☎41-3586)